

法学部 植村秀樹先生 最終講義

「吉田ドクトリン」論 から「米軍の都合」へ

——これが私の南無阿弥陀仏、あるいはコロンブス症候群？——

法学部の植村秀樹教授（国際関係論、政治学）が本年度末で退職されます。

つきましては、最終講義を下記の要領にて開催いたします。

どなたでも自由に聴講できますので、ぜひご参加ください。

法学部学術研究委員会

日 時： 2026年3月5日（木） 13時05分～14時35分

会 場： 新松戸キャンパス1号館503教室

演 題： 「吉田ドクトリン」論から「米軍の都合」へ

——これが私の南無阿弥陀仏、あるいはコロンブス症候群？

なお当日は、『再軍備と55年体制』から『平和国家の戦争論』に至る5冊の著書を中心として、ジャーナリズム（新聞、テレビ等）での発信や参議院憲法調査会での意見陳述等も含めて、先生の研究課題である戦後日本の安全保障の研究に関する講義となる予定です。

<植村秀樹先生ご著書>

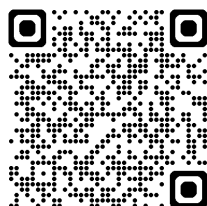
『再軍備と五五年体制』（木鐸社、1995年）

『自衛隊は誰のものか』（講談社現代新書、2002年）

『「戦後」と安保の六十年』（日本経済評論社、2013年）

『暮らして見た普天間——沖縄米軍基地問題を考える』（吉田書店、2015年）

『平和国家の戦争論——今こそクラウゼヴィッツ「戦争論」を読む』（流通経済大学出版会、2024年）



植村秀樹先生教員紹介